

【 小児看護学 】

授業科目	小児看護学概論		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師 ★		講義時間	14
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 小児期にある対象を理解する。 2. 小児の特徴や成長・発達を理解する。 3. 小児看護の役割・機能を理解する。 4. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	小児の特徴 小児を取り巻く医療の変遷 小児看護とは	1) 発達からみた小児期の区分 2) 子ども観の変遷 3) 小児医療・小児看護の変遷 4) 保健統計からみた小児		講義
2回		5) 小児を取り巻く環境 6) 小児看護の対象 7) 小児看護の場と看護の特徴 8) 小児看護の課題		講義
3回	小児看護における倫理	1) 子どもの権利条約 2) 子どもの自己決定権 3) 小児医療の場と子どもの権利		講義
4回	小児の成長・発達段階に応じた日常生活	1) 成長・発達の原則と影響因子 2) 発達の評価と家族環境アセスメント 3) 生活を支える形態的成長		講義
5回		4) 生命を維持し恒常性を保つ機能の発達 5) 子どもの発達に伴う生活行動の変化		講義
6回	小児看護における概念と理論	1) 子どもの心理・社会的発達 成長・発達に関する概念と理論 家族関係に関する概念と理論		講義
7回	小児の栄養	1) 子どもにとっての栄養の意義 2) 食事摂取基準 3) 発達段階別の子どもの栄養特徴と看護		講義
	子どもと法律	1) 子どもを守る法律と制度		
評価方法	筆記試験 演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学② (医学書院)			
参考文献				

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	25
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 小児保健と小児を保護する法律について理解できる。 2. 子どもの発達段階に応じた健康増進の看護について学ぶことができる。 3. 小児と家族を取り巻く社会を理解できる。		
回数	主題	学習内容及び方法	授業方法
1～2回	母子保健と小児保健	1) 小児の保健統計 2) 母子保健の動向 3) 小児を保護する法律 ・児童福祉法 ・母子保健法 ・医療費の支援 ・予防接種	講義
3～9回	子どもの発達段階に応じた健康増進のための看護	1) 新生児の養育および看護 ・新生児の健康増進と安全な環境の提供 ・新生児の子どもをもつ家族への看護	講義
		2) 乳児の養育および看護 ・乳児のセルフケアの発達と看護 ・乳児によくみられる健康問題 ・乳児のいる家族への看護	講義
		3) 幼児の養育および看護 ・幼児期の基本的・社会的な生活習慣獲得への支援 ・幼児期の子どもをもつ家族への援助	講義
		4) 学童の養育および看護 ・学童期の子どものセルフケアの発達と看護 ・学童によくみられる健康問題 ・学童期の子どもをもつ家族への看護	講義
		5) 思春期の看護 ・思春期の特徴とセルフケアへの援助 ・心理・社会的適応に関する問題と援助 ・思春期の子どもをもつ家族への看護	講義
10回	子どもの事故・外傷	1) 子どもの行動の特徴と子どもの事故・外傷 2) 発達段階に合わせた事故防止対策	講義
11～13回	子どもに合わせた遊びの援助	1) 子どもの発達段階と遊びの特徴 2) 発達段階に合わせた遊びの援助	講義 演習
評価方法	筆記試験 演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②(医学書院)		
参考文献	目で見ると子どもの病気の地図		

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	4
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 子どもの発達段階に応じた健康増進の看護について学ぶことができる。 2. 小児と家族を取り巻く社会を理解できる。 3. 障害のある子どもと家族の看護を理解できる。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	障害のある子どもと 家族の看護	1) 障害の捉え方 2) 障害のある子どもと家族の特徴 3) 障害のある子どもの発達段階に応じた看護		講義
2回		4) 障害のある子どもと家族の社会的支援 ・チームアプローチの重要性 ・看護師の役割		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)			
参考文献	目で見ると子どもの病気の地図			

授業科目	健康障害のある子どもの看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	1 (45分)
学習目標	1. 健康障害を持つ子どもや家族に必要な看護について理解できる。 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護の方法が理解できる。 3. 子どもの疾病の経過とその看護について理解できる。 4. 症状を示す子どもの看護について理解できる。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1～2回	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	1) 健康障害が子どもと家族に与える影響 ・病気・障害に対する子どもの反応 ・子どもの病気・障害に対する家族の反応		講義
3～5回	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護	1) 入院中の子どもと家族の看護 ・入院環境と看護の役割 ・入院中の子どもと家族の特徴と看護		講義
		2) 外来における子どもと家族の看護 ・外来の特徴と看護の役割 ・外来を受診する子どもと家族の特徴と看護		講義
		3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅療養の環境と看護の役割 ・在宅療養中の子どもと家族の特徴と看護		講義
		4) 災害時の子どもと家族の看護 ・被災地の環境と看護の役割 ・災害時の子どもと家族の特徴と看護		講義
6～8回	治療処置・検査を受ける子どもの看護	1) 子どもへの説明と同意 ・与薬 ・輸液管理 ・経管栄養 ・呼吸症状の緩和		講義
	子どもの虐待と看護	1) 子どもの虐待の現状と対策 2) 虐待が子どもに与える影響 3) 被虐待児および家族に対する援助		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②（医学書院）			
参考文献				

授業科目	健康障害のある子どもの看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 健康障害を持つ子どもや家族に必要な看護について理解できる。 2. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護の方法が理解できる。 3. 子どもの疾病の経過とその看護について理解できる。 4. 症状を示す子どもの看護について理解できる。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	子どもの健康問題と看護	1) 健康問題をもつ子どもと家族の看護 2) 子どもの治療・健康問題にかかわる看護 3) 子どもの日常生活にかかわる看護 4) 健康問題をもつ子どもの家族の看護		講義
2～5回	子どもにおける疾病の経過と看護	1) 慢性期にある子どもと家族の看護 ・慢性期の特徴 ・慢性状態が子どもに与える影響 ・子どもと家族の看護		講義
		2) 急性期にある子どもと家族の看護 ・急性期の特徴 ・子どもと家族の看護		講義
		3) 周手術期の子どもと家族の看護 ・周手術期の特徴 ・子どもと家族の看護		講義
		4) 終末期における子どもと家族の看護 ・終末期の特徴 ・子どもの生命・死についてのとらえ方 ・子どもと家族の看護		講義
6～7回	症状を示す子どもの看護	1) 痛み 4) 下痢 2) 発熱 5) 脱水 3) 嘔吐		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学①（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②（医学書院）			
参考文献				

授業科目	小児看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 子どもの成長・発達についてアセスメントする。 2. 子どもに適した入院環境と病気・入院が小児と家族に与える影響について理解する。 3. 子どもに対する特徴的な基本的看護技術を習得する。			
回数	主題	学習内容及び方法		授業方法
1回	病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	1) 病気や入院が子どもにあたえる影響 2) 子どもの病気の理解と受容 3) 入院適応に向けての看護 ・プレパレーションとは		講義
2回	成長・発達に応じた子どもの看護過程の展開	1) 子どものアセスメントの視点について(ゴードン) 2) 情報の整理【事例】(2事例)		講義 演習
3～5回		1) 情報の整理と分析【事例】		演習
6～7回		1) 関連図・看護問題の明確化【事例】 2) 看護計画立案【事例】		演習
8～9回	成長・発達に応じた子どもの看護技術	1) 子どものバイタルサイン測定 2) 対象に合わせたバイタルサイン測定【事例】		演習
10～11回	小児看護に必要な技術	1) コミュニケーション技術 2) 小児のバイタルサイン測定 3) 小児特有の検査(採血・採尿) 4) 酸素療法 5) 小児の与薬・薬液吸入 6) 点滴の固定 7) 保育器の管理		演習
12～14回	成長・発達に応じた子どもの看護技術	1) 対象に合わせたプレパレーション【事例】 2) 指導		演習
15回	成長・発達に応じた子どもの安全管理	1) 小児用ベッドの安全 2) KYTシート		講義
評価方法	演習課題 演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護概論 小児臨床看護総論 小児看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学②(医学書院)			
参考文献	写真でわかる小児看護技術			